ついては、既に白鳥博士[14]が東胡民族考に於て詳細に論ぜられた通り、豁兒に兵伏・箭筒・櫜鞬の意あるべき筈なれど、蒙古語には今此の義は存しない、箭内學士の説によると「khor は箭筒の義、chi は所有者・所掌者を示す、故に實錄に箭筒士とせるは適譯なり」と見えて居るから、或は khor なる蒙古語に箭筒の義も存するのかとも思はるゝけれども、今自分の手許にある字書の中には見當らないし、白鳥博士も蒙古語には此の語に箭筒・兵伏等の意なきことを述べて居られるから、暫くかく見て置く、然るにトルコ語中チャガタイ語では武器・兵仗 (die Waffe) を qur といひ (Radloff, ibid. II. 918) アルタイ語では ḳoral といひ (Vambéry, ibid. 86) Sag. koib. 語に弓挿・箭筒 (das Bogenfutteral, der Köcher) を qurluq (luq は性質を示す接尾語) といひ (ibid. 944) kara-kirgiz 語でも箭筒を kurluk といふ (Vambéry, ibid. 86) 祕史の明譯に豁兒を箭筒と譯し、那珂博士も之に據つて居られるのは緣故を此等に求むべきであらうと思ふ、しかしまた黑韃事略の「環衛則曰火魯赤」と記せるに從つて火魯赤卽ち豁兒赤を環繞の防衛と見るならば、これに相當する語としてはウイグル語の墻、墻にて圍むこと、守護 (Zaun, Umfriedigung, Schuty) の意なる ḳaruḳ, ḳoruḳ, ḳuruḳ 等をはじめ、Altai 語の ḳori=schutzen, umzäunen, wehren; ḳorum=Wehre, Lager; Jakut 語の ḳur=Leibgurt; ḳurda=Umgürtung; Cagatai 語の ḳur=Wache, Schutz, Gürtel (Vambéry, ibid. 86) その他同一語の多くの方言にみな此の意味は表はれて居る、蒙古語にも直接環衛の意ならずとも、防禦する、禁止する、禁錮する、防壓するを khori- といひ、防禦、禁止を khorik といふこと既に白鳥博士の示されて居る通りであるが、これあるが爲に豁兒赤なる語及び制度はトルコから傳はつたものでないとは云ひ得ない、勿論後魏に既に胡洛眞卽ち蒙古の豁兒赤に相當するものがあるが、その帶仗人なる